

日頃より、相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今回は、現在の工事進捗状況（高架橋の基礎杭工事、仮下り線切替え工事に伴う軌道敷設状況）と基礎杭の施工方法についてお知らせいたします。

高架橋の基礎杭工事について

👁️星川駅部の基礎杭25本を施工

以前よりお知らせしてまいりました、星川駅部における1番線の南側で10本と仮3番線の切替えにより広く空いた上下線間（2番線と仮3番線の間）で15本の計25本の基礎杭を施工しました（写真-①参照）。今後は、杭のまわりに高架橋の柱を受けるためのコンクリート基礎の構築を進めていきます。また、天王町1号から2号踏切間の南側においては、3月末までに17本の基礎杭を施工する予定です（写真-②参照）。施工箇所に関しましては、次ページの事業計画位置図（図-①）を参照下さい。



写真-① 基礎杭10本施工後の1番線南側
（2、3番線間においても15本施工）



写真-② 天王町1号～2号踏切間南側の
杭施工風景（3月末までに17本施工予定）

仮下り線切替え工事に伴う軌道敷設について

👁️仮下り線軌道敷設開始

今年の秋に当事業で3回目の線路切替え工事として、約1.5kmにわたり現在の下り線を北側に切替える工事を予定しています。現在は広く空いた仮上り線と下り線の間で事前に施工できる箇所の軌道の敷設を行っており、天王町1～2号踏切間において225mの敷設が完了しております（写真-③参照）。今回の仮下り線切替えは、1回目の仮上り線切替え時より1箇所多い工事区間の全6箇所で、事前に敷設した軌道と既存の軌道を接続させる工事を行なう予定です。なお、切替え日程、詳細に関しては決定次第別途お知らせします。



写真-③ 天王町1～2号踏切間における
仮下り線敷設状況



ホシテン豆知識(その6) 基礎杭の施工方法について

今回の事業にまつわるキーワードや情報についてお知らせするコーナーです。

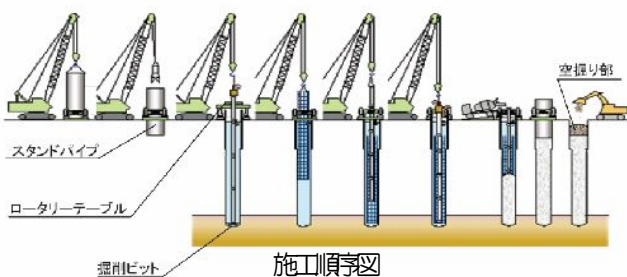
現在施工している天王町1～2号踏切間の南側など線路から離れており十分な作業高さが確保できる箇所の基礎杭工事は、リバースサーキュレーションドリル工法（リバース工法）で、星川駅のように線路に近接する箇所や架線などにより作業高さに制限のある線路内の箇所の基礎杭工事は、トップドライブリバース工法（TBH工法）で施工しています。今回はそれぞれのコンクリート場所打ち杭工法について紹介します。

リバース工法

概要

クレーンで支持した掘削ビットを回転させることで掘削し、土砂を泥水とともに地上に吸上げ排水した後、水を再循環させ掘削後の孔壁を保持し、鉄筋かごを建込み、コンクリートを打込むことで杭を築造する工法です。

- ①掘付け
- ②スロトパイプ建込み
- ③掘削（一次スライム処理）
- ④鉄筋かご建込み
- ⑤Hパイプ挿入
- ⑥二次スライム処理
- ⑦コンクリート打設
- ⑧スロトパイプ引き
- ⑨養生し



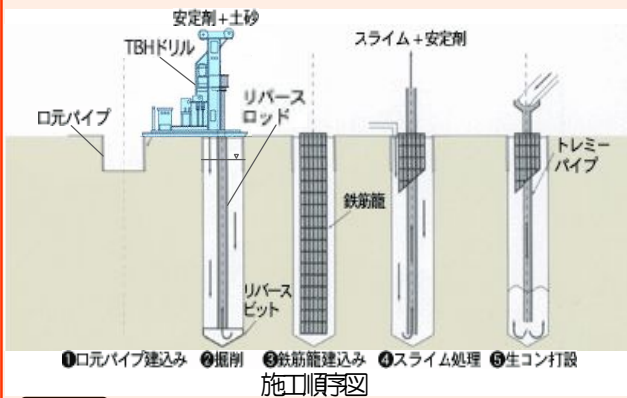
特徴

- ・低騒音・低振動で市街地工事に適している
- ・掘削深度 70m で杭径は 800～4000mm である
- ・軟らかい地盤でも安全に施工できる

TBH工法

概要

従来のリバース工法に加えて、狭小、低空間の条件下でも迅速かつ容易に施工することが可能であり、線路近接箇所でも多数採用されている工法です。



特徴

- ・施工時の騒音・振動が極めて低いレベルである
- ・機械が小型のため狭小な敷地での施工が可能
- ・高架下など作業高さが低い場合でも施工が可能
- ・掘削深度 50m で杭径は 600～2000mm である

～お問合せ～

○ 事業に関するお問合せ……横浜市 道路局 計画調整部 企画課 鉄道交差調整担当

Tel 045 (671) 2792

○ 工事に関するお問合せ……相模鉄道株式会社 鉄道カンパニー星川・天王町駅付近連続立体交差工事事務所

Tel 045 (335) 6733

ホームページアドレス：<http://www.sotetsu.co.jp/train/crossover/>